

## 美術館を訪れる

### 国立西洋美術館（東京都江東区） 大英博物館所蔵「古代ギリシャ展」



伊藤誠三

国立西洋美術館といえば、先頃、コルビジェ設計として  
の世界遺産への登録申請が却下されたニュースがあった  
ばかりであるが、学生の頃に師の吉阪隆正先生が協力し  
た建物として記憶に残っている。今更、古代ギリシャ・  
ローマ文明・彫刻といっても、最近の建築教育では必須  
ではないのかもしれないが、私の建築学初学の頃（半世  
紀前になるが）は「西洋様式演習」や、デッサンで、必須  
のテーマとなっていた。大英博物館には大分前になるが、  
ロンドンに業務渡航した際、立ち寄ったけれど、総てを  
見れたわけではなかった。一昨年にはギリシャを周遊  
して旧来の学習の諸原像も実見できたのであるが、現地  
から持ち去られたものにどんなものがあるか期待を持っ  
て足を運んだ。

今回の展示品は運搬の容易さのためか小さいものが殆ど  
なのが少し残念だが、アンフォラに描かれた神話上の図柄  
にも詳細な説明があり、分かり易い展示構成となっている。  
改めて、じっくり見る機会となった。「サテュロスから  
逃れようとするニンフの像」の精緻さがミケランジェロ  
を思い出させた。他にテーブル脚部とされるが、小型の

スフィンクス像の美しさが印象に残った。

世界ではギリシャのみならず、エジプトやインドなど、  
植民地時代に文化財を持ち去られた国々が返還を求める  
運動をしている。アテネではパルテノンの傍に大きな  
博物館を建て、フランスや英国に持ち出された彫刻類の  
返還を待っている。持ち去られたとはいえ、そうでなけ  
れば、今日まで価値がまとめて整理され、保管されてい  
たかどうか、とも思う。

ついでながら、常設展は旧松方コレクションが中心で  
あるが、これらは専用の展示館を設けることを条件に  
フランス政府から返還を受けたものと言う。モネなど印  
象派の作品も多い。ルーベンスの小品デッサンもあり、  
一見を薦める。

2度の増改築工事で規模も倍増し、免震工事なども施さ  
れて、原設計より大きな変容を遂げているし、当初より、  
外壁は原設計の打ち放しコンクリートが碎石打ち込み  
パネルで外装され、美しい日本の表情となって居り、コ  
ルビジェ作品としての世界遺産と言うのは他の作品を比べ  
てみても、難しいように思われる。



編集担当より:新しい頁として「美術館を訪れる」を連載します。近年、美術館の新設が続き、様々  
な企画で国内外の美術・工芸品が紹介されています。優れた美術館や興味ある展示企画に行かれた  
際、訪問記をお寄せ下さい。連絡は伊藤誠三まで